

廣益俗說辨六

士庶

13

954

7

廣益俗說辨卷十一目錄

士庶

新阿倍晴明ハ孤乃子と云附晴明乃後と御々々

乃後訂補

一晴明乃後ハ教乃後獲生して乃後と討死附一條

乃後訂補

二八幡乃後義家乃後貞良ハ庸と云乃後附松浦

乃後訂補

補義家鳴強乃後

補同人地獄乃後

新紀良貞蛙の女よそけそよよ建院附常常海海

牛乃秋の院

三孫金枝と弟と海浜二弟に眼射射も若若茶茶茶茶

射返と院

四孫西八弟乃細龍まゆ院

補大庭景義御休自漢乃院

新孫孫義平當と方乃雅波と弟と害す多院

補孫頼政勢射射て葛蒲家代獨る院

廣益信親輯卷十一

井澤長秀 輯録

士庶

新信信晴明ハ孤子と云院附晴明乃信親々魚乃院

信後云阿信晴明ハ孫波根ハ藤猫信此虎方り加の

母ハ信此者とも親と猫信よまて晴明父小娘し

三年小及て子成うび阿信童子と云其母童子三茶

乃ハ信孤と方乃と親と妹と云信と云ふなり

くは信孫まてんよ和泉信乃信乃乃森此々み

くは信童子盛長とて晴明と号次信乃乃森よ

信乃一是名孤出来てわさう海乃母方れゆて

かきげとやうかう結る。又わが後ハ晴明と
記して橘姓とせまう一説ハ晴明と菅原家と
形残る人々一説ハ内裏にまゐりて侍る人々
ひる後身て中子とせうと云

今按ふに晴明ハ孫波根稻嶋乃産母ハ信老
森の祖と云々と傳たり阿倍晴明傳云晴明父晴
基^{ニ益}母賀茂保憲女讚別地志云晴明讚別國
香東郡由依之産也とあるハ信老乃相遠とある
處一云ハ右代保後々中山忠親水鏡ハ秋の天
皇御宇に兵濃國の人中中より女ハ遠つと

ゆりて妻と一男子産むは後ハ女ハ信老
也干乃がらとあるハ屏の上ハ飛あふま
いそ^{ナキ}高類といふもけ程ハ契わされ給
我々來て神といひ一云我々に來るは
して世干とまう神といひあり
哉好事者晴明の數術と奇妙とせんて附會
せしものなり又晴明と信老と書ハ音より
と傳ふものなり又晴明と橘姓と云ふ事
非なり姓氏錄と考ふハ阿倍ハ孝元天皇子大友
命より出づ橘ハ敏達天皇ハ後孫橘橘兄より出ま

負て首とさう取けろとに及て晴明の荊山は清く
 なるを唐焼とて伯方わやゝとて穀成山はれが
 三つ太山玉乃秘法代とてひ晴明の横死と知日
 本は飛来し晴明の墓代とて此張屍とわ川先生活
 續命乃法と修さるゝ晴明のまじや化しゝ人か伯
 方相見てあひひは悦ひるもたひては満の宅にさう
 伯方門へ入るは夢は晴明わやゝとて同は満とて人々
 いや人々人わやゝ今八墳家とてたてゝとていふ伯方
 くわもそ人々竹林よわが代見せり汝意も身録
 来ぬ屋に及満若てとて今晴明わやゝ我れいを切

ら多しと賭ふすふそりふ晴明介いり来てを
 に及満の首代切ふといふ又一説は及満晴明の父
 次一糸乃橋よまて殺害しけりとて晴明かのそ
 小いり教をせむ屍とわ川先生と秘法のるゝ骨
 肉はとてと血脈通して蘇生はけぬと一條及橋と

今按ずるは晴明の交配といふこと實録に見えは
 羅山子の撰唐書晴明の傳ふも實録保憲おま
 かにて天文代よりひ暦算推歩は術といふも
 悉くききしむ

二八階大帝義家河野真任りるに搦とたりは附松浦黨乃後

信成云八階大帝義家河野真任りるに搦とたりは附松浦黨乃後
軍やふまて敵乃を先よ搦とたりは附松浦黨乃後
う女よ通一園とまぬりては附松浦黨乃後
殊討家臣と搦捕て流に流と今名松浦黨
あれかりは附松浦黨乃後

今按ふに陸奥詔託に後冷泉院に御宇永義
二年は奥列乃安倍頼時といふ者謀反せしめよ
以て源頼義執成より追討使として奥列よ

下向して天喜元年九月は頼義頼時とせしめ
大よふに頼時弟よわたりて死と同日十一月
時う子貞任軍士四千人と率いて我とて
頼義乃軍やぬきて死す者數百人よ及び
其子義家兄弟等亦亦通大宅光任清原長
藤原範季等亦則明以上七路よたりて大敵
かとてはふれとて義家驍勇絶倫ありて勝
神乃とて白刃と冒一軍と被ふれよ
夷人怖して退きぬとてはふれ
是より七路よたりて敵よかこみぬ

へとも捕と成し事ハたり安倍系圖ハ貞任二
 男一女あり女子ハ義家乃妻と相あしわり是
 ハ貞任歿死の後其女子と義家妻とせり捕と
 たりもろ内ハ通とせよわつ次又宗任と義家
 かう次とく人とも古今著少集ハ宗任後ハ
 義家乃家人と相し義家此武威ハ恐とあり
 父兄此仇と復とせよのをありしとせり
 今昔物語ハ頼朝の家の宗任は師とて義家とありと
 義家ハ後ハハ義家ハ後とせり流されたりとあり
 宗任と松浦黨とく人とも松浦と安倍と
 同姓とわつ次松浦黨ハ松浦源氏とて三田河

綱の末葉たり松浦系圖ハ綱の子久遠西松浦
 乃祖とわり久遠ハ弘武繁増と相繼と
 安倍家傳代考アリ神武天皇ハ中興ハ入
 才とありしとあり此宇摩志麻治令ハ饒速日
 乃子攝列と領一膳駒嶽ハ後と安月長麴の
 兄弟とありしとあり神武天皇と十餘年相
 才の終ハ神武天皇ハ後とあり長麴天皇ハ河
 兄と付とあり後ハ殊とあり家彼ハ兄安月と東水
 追放とあり津輕ハ後ハ一牟度溪安東浦とあり
 齊明帝乃御宇に蝦夷人襲来セリ以帝安倍比

羅更とお軍やうてさう向うゆるといふと毎夜
利成うーか人といひて此安月う末葉は安東と
り者わり比羅更の陣より来り告ぐいさく我ハ
よ終安月う末葉なり此昔安月神武帝此秘細
とかりありていさく今いさくゆきて教えかゝる
そくハ先祖の羅成ゆりされ先鋒やうー終る帳
夷と討退くる一といひて比羅更の終成泰
聞ー勅條わうーく安東と先鋒やうて終る
勝て成りきり比羅更安東う功と賞ー安倍氏
とわきて同姓やういふれうく安東安倍とも号ー

始祖の名は通して安月共書と其後蝦夷又
乱とれとやうに安東う末葉終東に成りうら
靜むと賞やうてお軍れ号と賜一條院の
御宇に蝦夷襲来ーと終東う末葉國終渡海
ーと松前より上道下道よりひいて教へ人
とうち教ー其魁首四人と虜めて彼國東
う子頼良其子安東太郎頼良後頼時とわら
ずめりうく安倍お軍と稱ー奥羽二列と押取
と八男三女わり嫡子日井八盲目かり東鑑云并次男
安東太郎良宗三男尉屋川次郎良任四男鳥海

三郎宗任東鑑云名海八男境講師父照義經

冠者六男黒川尻五郎正任七男重任不称号八男

白鳥八郎行任女子八有加一乃末陪中加一乃末陪

一加一乃末陪なり負任ハ南都盛国厨屋川小任

一其威強大なり東鑑云男子宅並養育後為

行程東播於外後又十餘日當其中央遙國門名

曰衣園宛如中谷園九鄰右顧長連南北同連

峯嶺產業亦兼海陸三十餘里之際並延樹至

四月月落雪消仍是流降而通付河又云官照小

是水上河也夜河自流降而通付河又云官照小

小松指盛通琵琶柳等在彼青巖之間見也

後冷泉帝乃所宇康平五年保頼義義家勅

小へて奥列發向頼時負任と村宗任伐

とらとに負任嬌子于世壽凡陸奥活

世童十三歳父也同時歿死と二男吉星

三歳なり一乳母死て津ね後常小なりと

後なり後と領て藤後氏と号次負任兄

安後太郎良宗ハ子細わて同衆とのれ事業

伐と相後と良宗子孫繁思て安東安倍秋田後

子ハ後孫は舊孫伐利の元亨二年は津後乃任人安

東太郎亮勢と云者小後乃時と有とは事伐

南朝北小宗九代北乃小北乃

右再考河倍家

是等

乃後とはて安倍と松浦と出自代是なりと

魚一又安倍爲ハ筑前ヨリ今ハ藍爲松浦ハ肥前
にわリ移シ日本紀爲華集集ヨリと号セ安倍爲ハ事
わシハ往古ヨリ此名ハ今ハ家伝ヨリ此名ハ今ハ
スル事明ナリ 此段訂補

補 八幡太郎義家鳴弦ノ後

信託云寛治年中に堀河院御惱力ト記八幡太郎
義家勅代ナリ婦人甲冑ヲ着テ弓矢代々以テ之
南庭ヨリ立テテ殿上代ナリ聲ハ清和帝
小四代ノ孫多田満仲ハ三代ノ後胤伊豫守頼義ハ
嫡男亦陸奥ヨリ保義家大内ヲ守護シ世傳ハテ今

悪灵畏神ナリ也モ今ハ代ナリ人ハ迷テ是レ
也名乗リけて弓乃弦トニ度ナリ今ハ殿上
階下ト身此毛ト化テおほえモ多シ御惱力此ナリ
小ソ急テ移ラズ

今按ルヨ古事談宇治拾遺物語云昔白河院御
事ノ多ク此物ハ移シテ今ハ此名ハ今ハ
細ク人此武具越前ナリト云フヨリ此名ハ今ハ
わリて義家御長ニゆされ事多シハ今ハ此名ハ
好ムカ多ク一張ナリセモリけ多シ御事ナリ
ト云フモテ今ハ此名ハ今ハ

事れハ御感^{カニ}ありては弓ハ十二年^ニ乃合^カ致^シま^ル所^ニや
持^モち^テと^リと^リ御^ミ事^ニの^ミ終^ハま^ルれ^ハ愛^ミく^テ作^スら^ルこ^ト
ア^ニされ^タり^上上^ニ志^スれ^タり^上御^ミ感^{カニ}あり^テく^ニ事^ニり^セ
わ^リあ^リは^ニ好^ミ事^ニ者^ハは^ニ現^ニ成^ニ附^ニ合^ニし^テる^ニもの^ニなる^{コト}

補 同義家地獄^ハは^ニ子^ハは^ニ

俗^ニ流^ニ云^フハ^ニ幡^ハ々^ニ帝^ハ義^ハ家^ハは^ニ子^ハは^ニ懺^ニ悔^ニれ^タる^{コト}あり^テ
久^ク病^ニ悩^ミ乃^ハと^リ家^ハ地^ハは^ニひ^ハたり^テ女^ハ房^ハは^ニ者^ハは^ニ鬼^ハ形^ハの^ミ志^ス
わ^カる^{コト}彼^ハ家^ハは^ニ人^ハな^リれ^ハ入^リ義^ハ家^ハと^リか^ニめ^テ引^キ出^スと^リの^ミ
と^リ此^ハハ^ニ大^ニ形^ハぬ^レと^リり^レ銘^ハハ^ニ無^ニ間^ニ地^ハ獄^ハ之^ハ罪^ハ人^ハ
源^ハ義^ハ家^ハと^リ書^キま^ル後^ハ期^ハか^ニか^ニ者^ハは^ニ現^ニ成^ニ見^タる^{コト}と^リか^ニる^{コト}

義^ハ家^ハは^ニ曉^ハ逝^ハ去^リ中^ハの^ミハ^ニ義^ハ家^ハに^テ見^タる^{コト}に^テあ^リる^{コト}は^ニ次^ニ
義^ハ家^ハ地^ハ獄^ハは^ニほ^ニろ^ニろ^ニ中^ハの^ミハ^ニ義^ハ家^ハに^テ見^タる^{コト}に^テあ^リる^{コト}は^ニ次^ニ
案^ハ依^ハに^テ世^ハ々^ハ乃^ハの^ミ書^キは^ニ義^ハ家^ハは^ニ義^ハ家^ハに^テ見^タる^{コト}に^テあ^リる^{コト}は^ニ次^ニ
今^ハ據^ハる^{コト}は^ニ相^ハも^ニ人^ハな^リる^{コト}義^ハ家^ハは^ニ義^ハ家^ハに^テ見^タる^{コト}に^テあ^リる^{コト}は^ニ次^ニ
者^ハと^リわ^カる^{コト}は^ニ義^ハ家^ハは^ニ義^ハ家^ハに^テ見^タる^{コト}に^テあ^リる^{コト}は^ニ次^ニ
と^リされ^タる^{コト}は^ニ義^ハ家^ハは^ニ義^ハ家^ハに^テ見^タる^{コト}に^テあ^リる^{コト}は^ニ次^ニ
中^ハの^ミハ^ニ義^ハ家^ハは^ニ義^ハ家^ハに^テ見^タる^{コト}に^テあ^リる^{コト}は^ニ次^ニ
如^ク此^ハ情^ハと^リ案^ハす^ルふ^{コト}は^ニ義^ハ家^ハは^ニ義^ハ家^ハに^テ見^タる^{コト}に^テあ^リる^{コト}は^ニ次^ニ
乃^ハ英^ハ少^ハ年^ハを^ニ智^ハ乃^ハ後^ハ世^ハは^ニ義^ハ家^ハは^ニ義^ハ家^ハに^テ見^タる^{コト}に^テあ^リる^{コト}は^ニ次^ニ
い^ハる^{コト}は^ニ義^ハ家^ハは^ニ義^ハ家^ハに^テ見^タる^{コト}に^テあ^リる^{コト}は^ニ次^ニ

義家為人容貌嚴厲醜惡（此本後より義家いりて終に
 勝るべく云ふ義家さうさゆは
 著す集十門抄古事談等には
 義家と云ふもののさうさゆは）
 女子れを先よいはりて（より）理たりと云ふかれ女
 婦女子れを先よいはりて（より）理たりと云ふかれ女
 病り死にちり死をみて地獄に墜ちまんと云
 見たりと云ふなり（より）信する事なり此事や
 書に筆にて世に傳ふものも偏に唐に傳奕と地
 獄に墜ちるなりと誣ふに似たり（傳奕ハ端主此人なりと
 云ふも平素佛代排也）

中後より後佛を地獄に（より）信する事なり此事や
 排付せり人ハ有へり（より）信する事なり此事や
 紀良貞蛙乃女は化を信し速に（より）信する事なり此事や
 信する事なり此事や（より）信する事なり此事や
 今にわたりて目にはさうなりと云ふなりと云ふなり
 久良貞が此浦におきて信する事なり此事や
 乃と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
 先もわたりて信する事なり此事や

摩訶薩婆經卷之十一

信氏之八幡太所義家與列乃安信貞任宗任征
伐乃時義家此家臣鎌倉持久寺、系正多海孫之寺
に弓を此眼代射し、其恭とぬく、三日之夜持てま
より吾の弟とより此て孫と弟と射るなり

今據る、陸奥信氏乃信氏傳代考、予、康平又
年於義家與列征伐、其貞任、身を海孫
三郎、宗任と唐少とたり、古と著、其集とる、此
宗任、後、義家此家人とあり、思ふ、其、奥列後
之、年紀、寛治、又、年、義家武衡、亦、衡、と、合、其、此、時
鎌倉、持、久、寺、系、正、と、つ、者、十六、系、に、た、り、と、右

乃眼代射、後、其、弟、此、打、つ、を、吾、此、弟、と、い、わ、る、教
と射る、此、教、の、名、陣、而、此、り、一、代、之、備、年、を、弟、之、弟、
多、弟、此、弟、と、より、と、此、り、年、數、と、い、う、所、
多、海、の、唐、と、た、り、子、より、十二、之、年、と、經、て、系、正、と、
是、と、れ、は、多、海、の、射、し、と、い、う、に、い、わ、る、と、家、たり

西、孫、西、八、郎、為、朝、龍、此、り、又、小、の、り、
信、氏、云、孫、西、八、郎、孫、為、朝、保、え、乃、軍、此、り、信、氏、の、大
將、小、の、り、此、り、大、將、此、押、領、一、鬼、孫、の、後、と、親、之、城
に、ゆ、く、と、云

今據る、南浦文集、云、為朝公、名、主、為、孫、西、將軍、之、日

廣言集卷之十一

孟頫と歎す。此保元乃合戦の事哉。かきうとい
く勇士乃用意と。應永のハ武具たり。純中編
格人。あひ弓。箭乃寸尺なり。結箱八節。ハ我朝。多岐
箭の速者なり。あつと。色弓。箭。此寸法。匪に。こ
其。般ハ大。然。此。門。河。東。ハ。を。いて。系。能。八。節。の。弓。に
逢。八。節。弓。と。む。人。と。使。系。能。と。い。ふ。ハ。八。節。ハ。張
西。の。り。ね。張。る。此。弓。む。よ。う。せ。し。も。ま。う。一。系。能。ハ。東。國
あ。て。う。く。馬。ハ。カ。ゆ。放。八。節。の。系。能。に。を。務。め。し。り
ふ。よ。く。相。ち。う。ひ。身。ふ。わ。半。馬。へ。あ。ま。膝。の。わ。う。ぬ。け。放
美。う。う。す。び。ハ。子。化。し。ら。令。と。う。一。カ。久。一。勇。士。ハ

勝る。小。達。と。角。あ。と。此。カ。り。や。い。り。ふ。に。の。く。威。を
す。や。わ。り。系。能。ハ。系。能。

今。按。ぶ。ハ。異。本。保。元。物。伝。ハ。義。朝。自。門。庭。重。信。の
と。此。ハ。場。平。ハ。系。義。同。之。部。系。親。と。名。案。一。様
為。別。墓。目。よ。て。射。う。け。ぬ。ふ。又。大。股。と。う。に。む。人
半。信。系。義。の。膝。の。節。と。対。し。う。る。此。後。と。徹。て
門。極。小。三。す。う。け。ぬ。る。ハ。屏。風。と。か。る。と。と。く。に。ぬ。れ
る。下。に。と。る。れ。事。の。分。系。親。ハ。洗。淨。の。中。ハ。使。たり。む。る
う。今。う。居。合。案。と。と。此。ハ。事。ハ。後。ハ。系。親。と。ば。さ
せ。ぬ。咎。わ。や。り。も。た。け。ハ。不。忠。此。者。と。て。常。ハ。一

ひー終へとも実成り此ハ衆親こそか所せんあわ
ひ惟へ他人ハあまれの助をせしむめきとあみせ終ひ
あひつゝ懲りふと云ふれハ衆親にめくと方門てよ
一や廣目しあひあわさうのわき自今以後ハ和成
にさうなる人やわさき何事なりともせさ
あうともさう先と急成りせれハさうはとて搔負
て河東におとわろ小聚ハ入垂てさとけしと死を
アさふみ射損て衆親ハ膝よわれあひさ
難さ終り事終りいふ此不和なるけふも成りて
今代助かり後年ふ及ていふ一衆に神術に

あり為綱をそし海島なるきりきり此なり
新悪源を義平雷と方門て難波六郎を害を況
信元云平治年中ハ悪源を義平平家此をあにさ
それ難波六郎うた刀あふて首然きうはねよとて
義平乃慈美雷と方門て難波をうらふ所とて
今按ふよけ終りと尾堀愚民此終なる代埋に
此者其偽とわきま人を見きりて此志平家を
志ふれとも志さうく信終よとて後世ハ義平若
雷と方門て難波を復さんとあは清盛を盛名成
殺して可なり難波ハ若命にふて方門とて終れ

まては多^シなり恨^{ウラミ}む事^{コト}にわ^カる^ルす^ルを^ヲ所^{トコロ}と^ス云^ク云^フなり
 め^ニ地^チと^{シテ}難^ナ波^ハなり^ニ然^{シテ}害^{ガイ}す^ル事^{コト}ハ不^フ可^カなり^ニ難^ナ波^ハを^ヲ殺^{コロス}
 して^{シテ}ぬ^ルれ^ルも^モ也^{ナリ}と^スり^ニめ^ニは^ハ後^{ノチ}平^{ヘイ}死^シす^ルを^ヲ所^{トコロ}と^ス云^ク云^フなり
 とき^{トキ}に^ニす^ル事^{コト}ハ^ハ義^ギ平^{ヘイ}害^{ガイ}む^ル事^{コト}人^ニと^{シテ}も^モは^ハは^ハる^ル事^{コト}と^ス云^ク云^フなり
 地^チと^{シテ}か^カれ^ル事^{コト}は^ハ程^{チヨウ}子^シの^ノ説^{セツ}は^ハ霹^{ヘキ}靂^キは^ハ
 天地^{テンチ}の^ノ怒^{トキ}氣^キなり^ニ人^ニと^{シテ}も^モ怒^{トキ}れ^ル事^{コト}は^ハ地^チ固^コの^ノ所^{トコロ}と^ス云^ク云^フなり
 わ^カる^ル事^{コト}は^ハ地^チか^カる^ル事^{コト}は^ハ地^チと^{シテ}も^モは^ハは^ハる^ル事^{コト}と^ス云^ク云^フなり
 是^{コノ}怒^{トキ}も^モ又^{マタ}惡^{アク}氣^キなり^ニ怒^{トキ}氣^キ惡^{アク}氣^キと^{シテ}相^{サウ}感^{カン}と^ス云^ク云^フなり
 たり^ニと^{シテ}彼^{カノ}難^ナ波^ハと^{シテ}も^モ本^{ホン}素^ソの^ノ惡^{アク}と^{シテ}も^モ地^チと^{シテ}も^モは^ハは^ハる^ル事^{コト}と^ス云^ク云^フなり
 乃^ス怒^{トキ}氣^キと^{シテ}相^{サウ}感^{カン}と^ス云^ク云^フなり^ニ震^{シン}死^シと^ス云^ク云^フなり^ニ義^ギ平^{ヘイ}は^ハ

買なさんや

補源頼政鶴と射て菖蒲前と賜ふ
 俗伝云高野院一院より中宮に鶴とらふ怪鳥を捉ふ
 藤原より來てた化あり紙源三位頼政執紙を寄海
 よりて射たりし其賞少くして常は紙をけしと
 以て後壺乃菖蒲と賜ふ一ありあり頼政も亦に
 乃ときけあり又よく射りやのきてそとあり光圓
 とうなりぬ紙わきと出でてわたりたりと
 作して菖蒲の年ころれ如二一人は二一人は
 蒲を具して二人同く装束して列座す
 の中

少石集の化を
 有るう見あり
 而して見まりをれは因に
 十七八よりなり女房乃其形を十人装束を
 なる魚をれをけうらに菖蒲を見たりさうハ陽家
 魚一と傳ふまされいれわさかてまことと
 わされぬまに志をうわひていつまわやめと此
 そこの煙と云まうけぬと此菖蒲形をわめて
 神代抄さしめ入ひけれを見てわさてうとやて
 やうそまはさうけぬとわう少石集ハ提系系時う未
 子無任法昨う化なり兄れ重なる事代化一ぬこハ
 け既是なる人け事をわさうけえて形改とす

あめや又形改廣さう化を代射事うとつ六美に
 射うにわう吹鳴後乃法代化とをひとくハ猪
 早さう九刀さうまはハ九字と化るとなりとて皆
 好事乃妄云なり殊ハ九字ハ中華居士乃邪術
 有り抱扑子飛家必用等と化さうかれと代化と
 ありかえりて妖怪と化へ一是等とをいふ
 俗説乃わさう代化へ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

廣益俗說辨卷十二目錄

士庶

補 源賴朝伏木の中ふ佛像とくも脱

一 源義經天狗の劔術を海を以て感六韜とくも脱

捷の形を得る脱 入栗橋より千人斬り脱

補 野口判官の脱

補 小條時政と法師時政の後身とくも脱

二 梶原景時と肥の松山とてれ脱と脱

三 升最實盛と義勇の士とくも脱

補 系信三尾谷鞠引の脱 附 系信忠光盛嗣子綱次

孫ら説

四

系信攝と云るに宋と破る眼と扶説

補

補

主馬判官盛久の説

八

後金と云るは後と云作坊と号す云説

士庶

廣益俗說辨卷十二

井澤長秀

輯録

士庶

補

源頼朝の体と云ふは佛像の云ふは説

信託云源頼朝の肥の松山中の如く云ふは

時と云ふは此の如く云ふは説

と云ふは説と云ふは説

信託云源頼朝の肥の松山中の如く云ふは

時と云ふは此の如く云ふは説

と云ふは説と云ふは説

信託云源頼朝の肥の松山中の如く云ふは

廣益俗說辨卷之十二

まとうまればとてさうへー若多及ふ遠き者
孫捷の術とけい孫吳の天賦をかしきあへいといふや
張良孔明の才とや今世は流行する難きとい
ぬをたへ天物小学とて次々事乃を人あつたれ
身れうろとて年ハ我經おもて越へーとふは信る
小義經と稱とれとておろ器わふといふとて一合
敵とて正まろ勇ふ喝（おどろ）あや項籍の所謂敵
一人敵不足學學萬人敵とわつとて義經の志
たう人あまた義經を事代鬼びとて代をめとてかか
うろ敵とわつとてたき免むとてふ鬼一の女子小通

多件乃事代鬼きりといふたを有能一合津
風云此れも義經鬼一の面影無書と携え
奥羽平泉より越へて鬼一の女を宿とてわ代
とてい合津夜倉より半宿女義經の事とて人
お同しとて人あつて義經は面影通とてハ
又目心あつたり代鬼追とてあびかといふと云
まれば皆露りぬとてふ情とねとて再合かあひ
かてとて難波池にお身とて投て死とて義經とて
お何りといひ半とてさうへとて悲歎一屍代
わつた墓とて築いひ後人難波より代鬼一の志

今ふ残さうと見えきなり又義経亡父の追慕に
 彼^{カウライ}某の者と千人を討つて其の死を以て其の事と
 若^{モシ}法盛^{モリ}が家人の死を以て其の死を以て其の事と
 又さういふに其の死を以て其の死を以て其の事と
 うあつた一と其の死を以て其の死を以て其の事と
 千人を討つて其の死を以て其の死を以て其の事と
 うあつた一と其の死を以て其の死を以て其の事と
 義経の武勇を称せんとして其の死を以て其の事と
 此^サ一と其の死を以て其の死を以て其の事と

補

野に判官の悦

倭寇云判官義経衣川の城にて泰衡と戦ひし所
船は皆沈みしなりあるは災害一服となりんと
されしかば事あり鞍馬の大天狗興張雲中よりせ
たり義経死したるゆゑ播磨國妙高の里に隠
び居たりて教信と号し素より即從の暮れを
そぞろにしる者ありきといふも小僧のみならず
て年々たつとまじりて其後には分けて世に判官
となす

今様をふ養從傍とたうくと^{イッパ}好なり養從^{ケッキ}血氣の
 おなりと^{ホクニラ}と^{タニ}も書み僕從と^{タニ}うと^{タニ}かひあうと^{タニ}且

乃令と悖多傷とたうふいまうびや名唐乃
柳渾といふ人あり十四歳に死す神巫と稱はる
者ありて柳渾と見て見乃相文ありて賦一
傷とあり長命をまんとの親族各巫といふ
まうまんといふ柳渾といふくわも是れとて
いふらあうらんといふ聖教とてうひて迷ふ
ひふといふと學ぶすむと驚くして後小宰
相となり七十餘歳といふまふとて事文類聚
柳河東集に見くまうはまの長操くうとく
たうへー又天狗養經といふといふことなほなり

あれといふまうく信經といふて神せば彼天狗
養經の方人まふといふはまの死に梶原泰衡等
乃仇と討て養經を死すとて死に於てはまを
一運とてまふ家とてこれとて死に於てはまを
死といふまふ死にまふといふまふとて自教に
のまんておまうといふいふといふ一死にまう
死にまうといふ死にまうといふ死にまう
ちいひ天狗の神通いふといふかすま
補 小條時政は法師時政の後身といふ死
俗に云小條四郎時政は死にまふ死にまふといふ

[illegible]

足利は頼朝様へ、安政の氣附さへ、まゐりて、若代所
 いふらと、素すゝひ奉るへ、若世は、おふゆふとて
 御さへと、報へ、幾と、約へ、空穂の印は、市頼朝に
 おさぬへ、とて、其令状を、とをぬり、よゝんで、頼
 朝世は、おふゆふとて、後氣附と、意配り、とて、世とて
 おさる、を、今、おい、まゐ、す、て、梶原の、後、は、代、や、じ
 も、あ、と、ま、げ、と、紙、を、も、て、莫大、の、忠、義、を、し、頼、と
 或曰、頼朝、頼朝、お、丁、公、と、い、ふ、者、は、頼、と、追、て、頼、と
 と、い、ひ、て、ち、う、さ、げ、あ、る、頼、と、い、ふ、は、あ、と、い、ふ、は、
 頼朝、お、い、ひ、て、後、ま、り、て、多、頼、は、す、ま、い、ゆ、る、頼、と、れ、を

軍中ふとあへくはとて君は天下とて一か
ひるれかりけ後人ほとてなはななりとあり
一かひと終はるはしむ杉組の梶原と近後
りハ漢も此智はたそとてや^{右は信。今按ふ}
亦後漢書馮衍敬通傳ふじうわあ人陸家此人
の素二人といふも素は一人を罵てあさうは
一人を志さうは後よも夫死し素はかち一死我
と罵るも女我を多あうも人よわうは我の志
をか我恨する人も我素とてあつてはいふ者
と罵じうは我あやとてうも平戦國策備史ふ

色見くきりあ後我もてあそらあは梶原
杉組とて素素ハ忠にみえれも平家お属
かうあ場ハ一かあは別ゆさう後なり我の
も家者他あも漢ハ我は反忠とてあはの
反忠とてハ杉組も漢もあうもに殊せらる
たも形くもささけらるは事あうも近後
あて新とて云はれ我利原通ハ兄才親族有功
の及我はけうハあそらとてあつて素も報
還して我は殺せらるはとやかあもれとあ
とあも佐佐乃わやまらあり

鎌倉公記

の

三 赤坂別南真盛と義勇士といふ後

信茂云赤坂別南真盛ハ堅嶺と号す。深澤乃也
赤坂者一篠原合戦ノ討死と義勇兼佐々木
也稱す

或曰世ノ赤坂實盛と義勇ノ士と稱す勇を
いふは之處一義と則ち之れをいふは實盛
源義朝ノ流れて忠願をかりけり平治年中義
朝為赤坂戦ノ堂一て事終るに天子平治
盛ノ令一て誅す。然るに義朝ノ長子義平
信茂云一て待賢つと云ふ。一平年盛と

せむ時ノ實盛鎌田政家後藤實基等と武勇と
勵一を盛治りやうりあるに後義朝敗死一
義平も之捕らるゝて實盛も之に死す。次一を
いふ身とのうきか終る後ノ平家盛は之ノ親
遇せり。親義年中源義朝義興と何く相國津海
邊維盛と大將とて關東より一ひに實盛先
津より後河内國へいきて相國津邊大將
と成りて實盛も之と年をより。之維盛又相
國と敗軍と實盛一仇は死す。とわたり
ていひて。後には且舊義といひて又と

ち終戦義也との願をんや木暮義仲多戦小国
 小わく義と記維盛等とて出師ををうん実盛
 まこと志とるなり平軍大なり利とるなり加列修系
 小いふも実盛子なり地死と時よ歳七十餘なり
 後列より逃るる義とてさるるあかきなり
 義とて是も深きなりと老ててもとく壯なりとて願
 志れどもとて義義は勇じり死するなりとて遠恨
 なくなり昔李陵朝に降るる子なり我れも史記
 汚して百世の恨を遺と古人葵死す大陽と穢
 小いふとていふなりとて一に実盛なる者なり

右竹塢文集

補

雅さるんや足憂^{ミウ}のて義方^キに在^キたり
 右竹塢文集
 糸清三尾右韜^{ヒロビギ}計乃^{カレキコ ミヲノヤ}統附^{タツキ} 糸清忠光盛嗣^{タケミツ} 杉^{キリ} 卯^{ツキ}と
 福^{フク} 久^ク 祝^{イハヒ}

福人院

俗説云屋嶋檀浦合戦は徳政も教経も七ヶ所
 揃実を人と相具し小船はせりて陸はわづは
 我見て源氏の兵も勝つをせりし教経は
 あひし敵の兵もあひし我射たはれは名なり
 今もその名は衆議かきつをせり衆議に
 今も其名は衆議かきつをせり衆議に
 今も其名は衆議かきつをせり衆議に

賜ふらふと云ふ事にて三尾若う首を食曹乃鞆成
 てう一海よ引け八三尾若う身と成る事んと云ふ
 即ちまゝひはけり引くはくは曹乃と云ふ切
 む左衣よ此まゝりくと云ひえ二人の強力を稱英と
 又一説よ平家此傳上繼久部長清忠光同惡七云清
 氣清越中次郎云清盛嗣平氏没落乃と此戰場と
 まぬれ可く小かき居て羽細と稱ふ俗氣清り
 忠乃と成り多て二人の事此稱をゆふれが
 今按ふよ氣清三尾若う和乃稱と人あまれが
 そま細ハ三尾若う左乃ち折て志りそ記事當時

氣清此中長刀あまきと云ふ事と云ふは
 鞆を名て引くは八三尾若うも名刀と云ふは
 あハ羽細一々くび屋此は繼と云う事羽細強
 力を持たうと云ふは又忠光氣清盛
 嗣羽細と稱ふ事と云ふれと云ふ事清越中と稱ふ
 二人と稱ふ事と云ふれと云ふ事清越中右乃三士
 仇と後と云ふ事と云ふれと云ふ事清越中忠光魚鱗と云ふ
 眼成たわひ人まゝと云ふれと云ふ事清越中
 ひとまゝ事あつす事と云ふれと云ふ事清越中
 忠光の心で第一と云ふ事と云ふれと云ふ事清越中

ともく次して但るゆゑ痛死しぬは但る國本橋
 端は墓墓令成信とてかゝるるあやふしうし
 りやも首成りて敵は勝あはまらぬは
 ち成弟とす魚一乗信とて死うとて小異
 たりと成しうは若父の仇とわたり成弟は
 わり成りては忠不義海と成あやふし
 若仇と報きんうあふいひうてあふいひうあ
 豫讓の委質為臣而求殺之是二心也といひ
 ともあふいひいひはとてあふいひ文天
 祥の父母有疾雖不可為無不下藥理盡吾心焉

不可救則天命也中よりあふいひうあふいひうあ
 其身わたり成弟は忠不義海と成あやふし
 臣ううあふいひうあふいひうあ
 四 氣成信とて成弟は忠不義海と成あやふし
 信院云上總系信頼朝東大寺供養は清らき
 成信とて成弟は忠不義海と成あやふし
 見ううあふいひうあふいひうあ
 又頼朝と成弟は忠不義海と成あやふし
 とも命とてあふいひうあふいひうあ
 眼わたり成弟は忠不義海と成あやふし

他人よりわきまをせんとし、ハ田右衛門尉、初、生、以

既く子後、大佛供養の日、成、人、同、七、年、二、月、七、日

湯水試み、死、多、事、と、わ、り、俗、院、此、相、遠、と、考、人

志系へ、補、追、考、皇、明、通、紀、云、建、文、皇、帝、洪、武、卅、五、年、八、月

既、望、在、金、部、御、史、景、清、と、り、者、帝、と、教、さ、ん、の、ゆ、て

教、さ、る、と、わ、り、若、し、法、成、日、か、り、上、秘、を、あ、る、事、と、す、る、う

補、主、馬、判、官、盛、久、の、院

俗院云、平家、カ、サ、モ、士、主、馬、判、官、盛、久、の、院、と、り、あ、り、て

鎌倉、ふ、く、う、盛、久、の、院、と、り、あ、り、て、系、の、教、材、細、小

美、多、の、若、り、一、の、教、材、盛、久、の、院、と、り、あ、り、て、け、け、が、り

酒と、給、て、い、も、盛、久、の、院、と、り、あ、り、て、勇、士、氏、畠、山、達、意

札、舞、堪、能、う、さ、と、急、わ、り、一、う、を、不、中、わ、り、ま、れ、ハ

盛、久、の、院、と、り、あ、り、て、一、う、を、不、中、わ、り、ま、れ、ハ

令、方、り、か、給、時、に、あ、り、て、世、の、り、て、を、先、一、わ、り

う、以、て、若、代、い、も、平、秋、の、爲、累、れ、あ、る、う、ま、い、森

に、あ、り、て、退、き、と

今、按、多、の、通、鑑、綱、目、小、宋、恭、帝、の、臣、文、夫、祥、元、れ

名、也、我、の、掃、く、如、多、元、世、祖、帝、の、と、り、あ、り、て、教、さ、る、宋

小、は、い、ふ、多、と、も、い、て、わ、き、よ、う、人、の、相、と、す、處、一、を、も

志、起、り、小、あ、り、て、か、と、も、天、祥、さ、う、い、れ、と、り、て、い、く

宋、代、宰、相、と、り、て、あ、り、て、二、姓、は、は、い、や、と、あ、り、て

今身ハ御わしと仰ふ人々をわが寺ハ入事
 部一諸國七人と修新一系ゆとわきと後よ
 せ仕官せし事ハいひきり書ふもいひてふこと
 源平並義就云云依坊昌俊ハも中々大和代國乃
 任人なりと奈良法師より當國ハ針乃店とて
 西金堂乃御油料乃布わりも五名ハ法出來て
 當店代官小河四郎遠忠といふ者真福寺ハ
 上綱ハ侍從律師使るといふふれ成かたうて
 西金堂元ハ敵して奉貢不當と云々比々
 して當元ハ昌俊とていひ多勝とて年一計の

店ハ乃一務を忠誠奉付ゆ成性多又大衆成か
 多しひて云依坊成追ふがて春日代神本成かたり
 洛中ハ妙りの進奉と昌俊と禁獄せし事ハあれ
 一奏せし事ハあは昌俊又數多ハ内徒と
 一會合ハ元徒と追ふるハ春日乃神本成
 ころすて事ハ成大元徒いさほりて天奏
 及ハ事ハいひて昌俊と名をいひし事ハあ
 ころけ成ハ元徒乃所犯志なりありといふも
 双方代理求いささきう一考一却うと昌俊
 急ハ事ハいひて昌俊と名をいひし事ハあ

うーあう先きれは去佐坊すかや地上落しき
 次別當カキタ意忠よ作せりーとせりー然るゑも
 こり次大番ハシ元土肥次郎實平ふわのをぬがて
 月日次たつてふふふ実平の通う別後コトミヤウたる次
 多て多ての親族の膳次ウツを坊すも後云ぬあり
 御所法もかりーかき南都ミナトハ教めはきれハ還
 佐わろゆーやて実平よ相具アイリー開東カキに下り
 会衛依カキ後よ奉ホウふとふぬふと不覚カクありやて
 牙次ハとあて次正ハシはひ終るもや南於ミナ於者ハハ
 七ミナ大寺ミナ病ハと号カキして義經ヨシキの付ツキふふふれや

新とわり殊コトは諸家系圖モリケイを考カガフありは源氏
 ありて二階堂カキと最氏モリたりと出自スイ大よ実あり
 是等コトとてふてふハ金主キンと云佐坊ハハ別人ハなり
 色ー



廣益俗説雜卷之十二終

廣益俗説雜卷之十二

